

## 2. 朱一学区の概要

### (1) 市街地の成り立ち

西暦 794 年、桓武天皇によって計画的に建設された平安京は、南北 5.2km、東西 4.5km、北限の一条大路は現在の一条通、南限の九条大路は現在の九条通、東限は現在の寺町通、西限は現在の葛野大路通に及んでいたとされています。

平安京は、平城京を踏襲し、都の北端中央に大内裏、そこから市街の中心に朱雀大路（現在の千本通）が整備され、京内は東西南北に走る大路・小路によって 40 丈（約 120m）四方の「町」に分けられていました。道幅は小路で 4 丈（約 12m）、大路では 8 丈（約 24m）以上あったと言われており、朱雀大路に至っては 28 丈（約 84m）の幅があったとされています。

朱一学区は、平安京創建当時、京内のほぼ中心に位置していましたが、その後、都が東方へ移ったことで京内より外れたため、多くが沼地のままであったと言われています。今から約百年前に京都市が誕生した時も、朱一学区は民家も疎らの野原で、葛野郡朱雀村、壬生村とそれぞれ称していました。

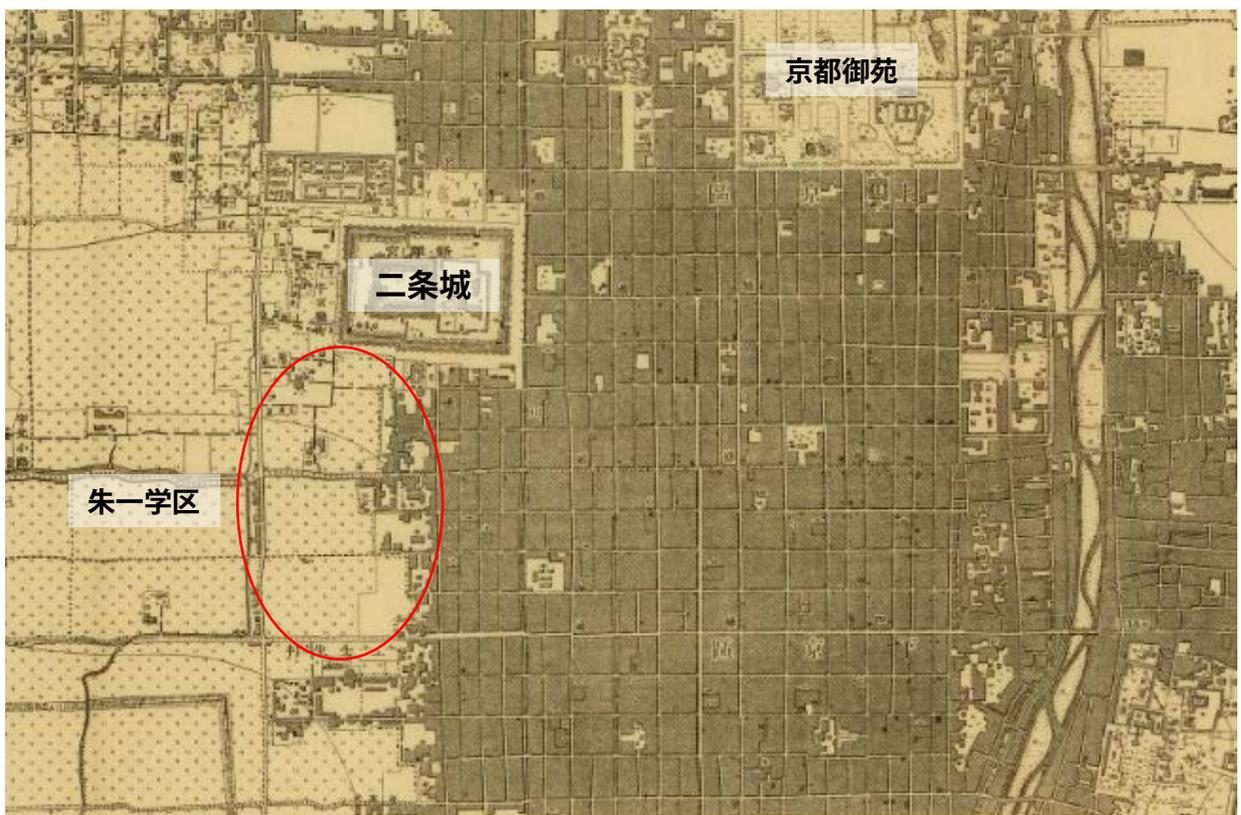


図 明治 22 年頃の町並みの様子

(出典：国際文化研究センター所蔵地図データベース（資料名：京都、地図番号：002469278))

近代に市街化が進む中で現在の朱一学区の原型が形成され始め、大正初期には、現在の市街地の骨格となる御池通や千本通、後院通、四条通が整備され、朱一学区の範囲を見ると北側から宅地化が進んできたことが伺えます。



図 大正2年頃の町並みの様子

(出典：国際文化研究センター所蔵地図データベース（資料名：京都市街全圖、地図番号：002754893))

大正7年、京都市に編入されたのち市街地が西方へ発展・拡大するのに伴って、その中心の四条大宮は西の交通の要所として発展しました。市電の千本線と大宮線を短絡させるため、四条大宮と三条を斜めに結ぶ後院通がつくられ、その中間に3万㎡敷地の市内最大の壬生車庫が完成しました。

その後、市街化された朱一学区のエリアは、第二次世界大戦時にはほとんど戦争の影響を受けず、戦前の路地や木造建物が数多く残り、今日に至っています。

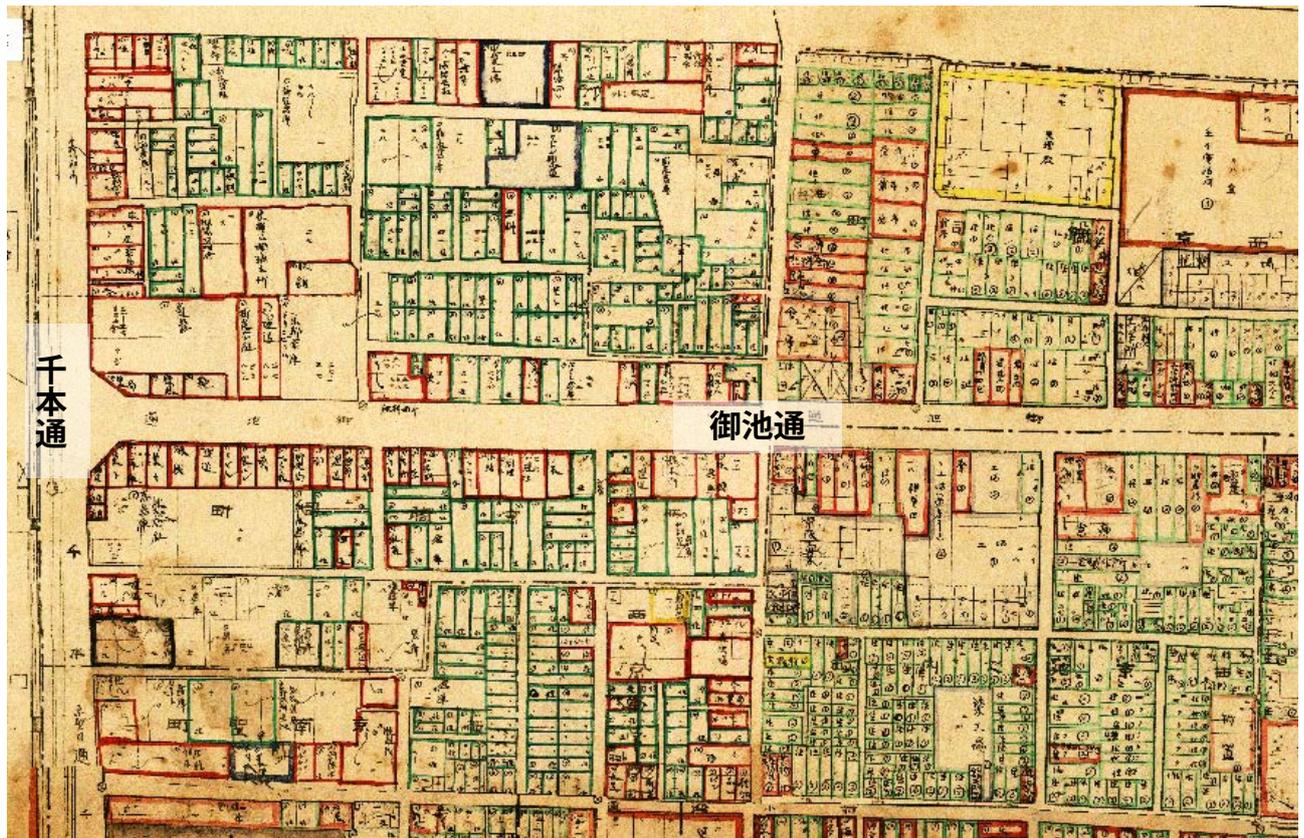


図 戦前の町並みの様子（朱一学区御池通付近）（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

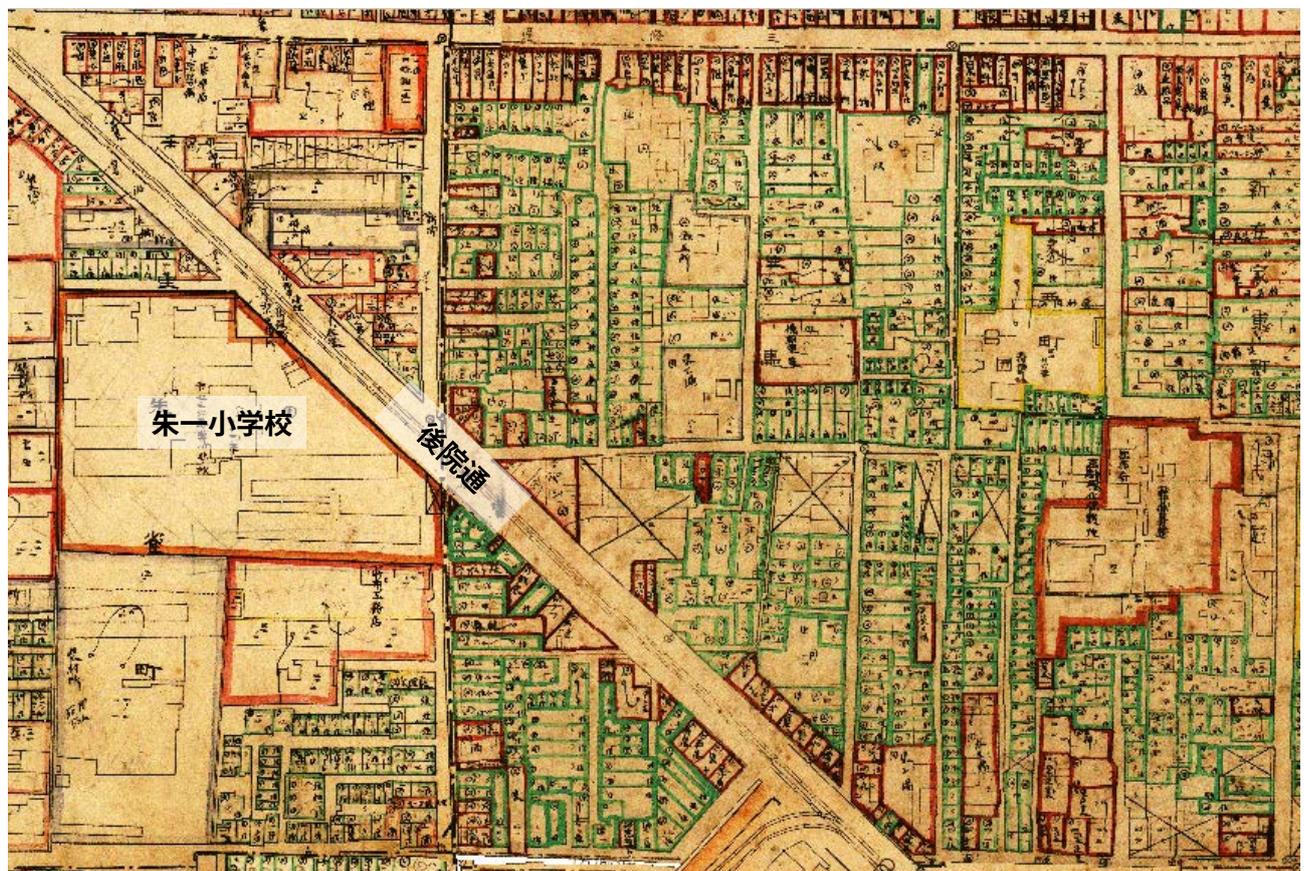


図 戦前の町並みの様子（朱一学区後院通付近）（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

## (2) 現状と課題

# 『みち』



### ■ 現状

- ・朱一学区は、千本通や後院通など、幅員の広い市の広域的な幹線道路が通過し、これらを繋ぐ姉小路通や三条通、坊城通などの学区の防災上重要な道が私たちの日常生活を支えています。
- ・これらの道の内側では、幅員4m未満の狭い路地や袋路が多く残り、京都らしい町並みが残っています。
- ・幅の狭い路地には、自転車やバイク、プランターなどが置かれ、通りにくくなっているところが見られます。
- ・敷地面積が十分ではないなどの理由から、建替えが進まずに、結果として道幅が広がらないままになっている路地も見られます。

#### 《住民のみなさんから頂いた主なご意見》

- ・行き止まりの路地が多い。行き止まりの路地は2方向に避難できるほうが良い。
- ・姉小路通などは重要な道。地震が起きても建物が倒れないようにすべき。
- ・災害時は時間が掛かっても安全な道を通るべき。
- ・道は広くなないと避難できない。

#### 子どもたちがまちあるきで気付いた

##### 『良いところ』 (主な意見)

- ◆ 広い道がわりと多い。 ✨
- ◆ 災害時に避難しやすい広い道がある。
- ◆ 袋路の突き当たりに避難できる扉があった。
- ◆ 新しく家が建ったところは、建物が下がって狭かった道の幅が広がっていた。
- ◆ 行き止まりの道が少なかった。
- ◆ トンネル路地が京都らしい。
- ◆ 狭い道は車が通らないから安全。



#### 子どもたちがまちあるきで気付いた

##### 『危険なところ』 (主な意見)

- ◆ 狭い道が多い。
- ◆ 狭い路地の中にさらに狭い路地があり、驚くほど入り組んでいた。
- ◆ 行き止まりの道は、地震や火災の時に脱出するのが難しいと思った。
- ◆ 抜け道が少ない。
- ◆ トンネル路地が崩れると道が一方通行になる。
- ◆ 狭い道に自転車、車、バイクが置いてあって通りにくい。
- ◆ 電柱がある場所は道の幅が狭くなっていた。
- ◆ ブロック塀にひびが入っていたり、傾いているものや壊れかけのものがあつた。
- ◆ 坊城通や千本通は自動車の交通量が多く危ない。
- ◆ 道がガタガタしていた。



### ■ 課題

- ▶ 災害時に沿道の建物の延焼や倒壊によって、災害時の避難経路となる道がふさがれてしまうと、「町内会の集合場所」や「地域の集合場所」、「避難所」への避難や緊急車両の通行に支障が出るおそれがあります。
- ▶ 幅員の狭い路地や袋路では、災害時に建物の倒壊や乱雑に置かれた物の転倒によって避難経路がふさがると、安全な避難や救出救護活動に支障が出るおそれがあります。
- ▶ 建替え時に建物が道路後退せずに、道が狭いままになっているところがあります。
- ▶ 特に幅員の狭い路地や袋路では、建替え等が困難な敷地が多くあります。

# 『いえ』



## ■現状

- ・市の広域的な幹線道路や学区の防災上重要な道の沿道を中心に、マンションなどの地震に強い大きな建物が立地していますが、幅員の狭い路地に面しては、耐震性の低い昭和56年以前の古い木造の建物も多く見られます。
- ・幅員の狭い路地や袋路などを中心に、老朽化した建物も見られます。
- ・学区全体では、管理状態が比較的良く、所有者と連絡がとれる空き家が多い状況ですが、中には老朽化した空き家も見られます。

### 《住民のみなさんから頂いた主な意見》

- ・古い家（耐震性の低い昭和56年以前の家）も多い。長屋が多い。
- ・木造が多く、火事が恐い。
- ・道の確保も大切だが、建物も強くしなければいけない。
- ・災害時に家から逃げられるようにすることが大切。
- ・空き家や、表札がなく、誰が住んでいるか分からない家が増えている。
- ・空き家の漏電による火災が不安。空き家情報の管理が必要。

### 子どもたちがまちあるきで気付いた

#### 『良いところ』（主な意見）

- ◆ 京都らしい建物があった。
- ◆ 家が古くて風情がある。
- ◆ 木造の家、京都らしい家がたくさん並んでいた。
- ◆ 道は狭いけど昔ながらの建物が並んでいて風情があった。
- ◆ 家が補強されていた。
- ◆ 古い家をリフォームしている。
- ◆ 古くてもしっかりと管理されている家もあった。
- ◆ 新しい家も多い。



### 子どもたちがまちあるきで気付いた

#### 『危険なところ』（主な意見）

- ◆ 家が密集していて地震や火事の時、危ない。
- ◆ 古い家が多く、燃えやすい、地震が来たときに倒れそう。
- ◆ 家にひびが入っていた。
- ◆ 傾いている家があった。
- ◆ 空き家が意外に多かった。
- ◆ 窓ガラスが割れている空き家があった。



## ■課題

- ▶ 耐震性や耐火性の低い古い木造の建物が多く、災害時には建物の倒壊や、火が燃え広がるなどの危険性があります。
- ▶ 適正に管理されない空き家の増加によって、災害時に老朽化による建物の倒壊や火災の危険性が高まるだけでなく、防犯や草木の繁茂など周辺の居住環境に悪影響を及ぼすおそれがあります。

# 『まち』



## ■現状

- 学区内には、姉坊城児童公園、錦坊城児童公園、坊城児童公園があり、「町内会の集合場所」や「地域の集合場所」となっています。
- 学区のほぼ中央、後院通沿いに「避難所」となる朱一小学校、北側には中京中学校、南東側には洛中小学校があり、それぞれ「地域の集合場所」となっています。
- 平面駐車場や空き地が学区内に点在しています。
- 高齢化が進んでおり、一人暮らしの高齢者も増えています。

### ◀住民のみなさんから頂いた主な意見▶

- 公園や空き地、平面駐車場が比較的多い。
- 町内で「町内会の集合場所」について話をしていない。
- 住民の皆さんが「町内会の集合場所」を知らない（忘れている）。
- 新しい住民にも「町内会の集合場所」を周知することが必要。
- 路地にお住まいの高齢者の方が多い。
- 災害時の高齢者等への対応に関するルールが必要。
- 消火栓の確認、災害時協力井戸の把握など、事前の備えが必要。
- 町内の町会長や防災部長が毎年変わる。防災リーダーの育成が必要。
- 防災について意識をもってもらえる機会をつくる必要がある。
- 次の世代を見据えてしっかりと防災について考えるべき。

### 子どもたちがまちあるきで気付いた

#### 『良いところ』（主な意見）

- ◆ 公園に防災倉庫や防火水槽があった。
- ◆ 公園があるから災害の時に近所の人が集まれる。
- ◆ 災害時に避難できる空き地や大きな駐車場があった。
- ◆ 消火器、消火バケツがセットでたくさんあった。
- ◆ 掲示板に消火器がある場所が書いてあった。
- ◆ 町内の地図があった。
- ◆ 昔ながらの風景や、お地蔵さんがたくさんあった。
- ◆ 昔（昭和初期）の工場跡のレンガ塀があった。
- ◆ ご近所どうし仲が良かった。
- ◆ 人と人との結びつきが強い、仲が良い。
- ◆ 家どうしが近いのでご近所つきあいが良い。



### 子どもたちがまちあるきで気付いた

#### 『危険なところ』（主な意見）

- ◆ 公園が少ないところがある。
- ◆ 空き地が放置されていて汚かった。
- ◆ 古い消火器（収納ボックスが開かない）があった。
- ◆ 消火バケツに水が入っていなかった。
- ◆ 交通標識の看板が斜めになったままだった。
- ◆ 電信柱がたくさんあったから、倒れてきたら危ない。



## ■課題

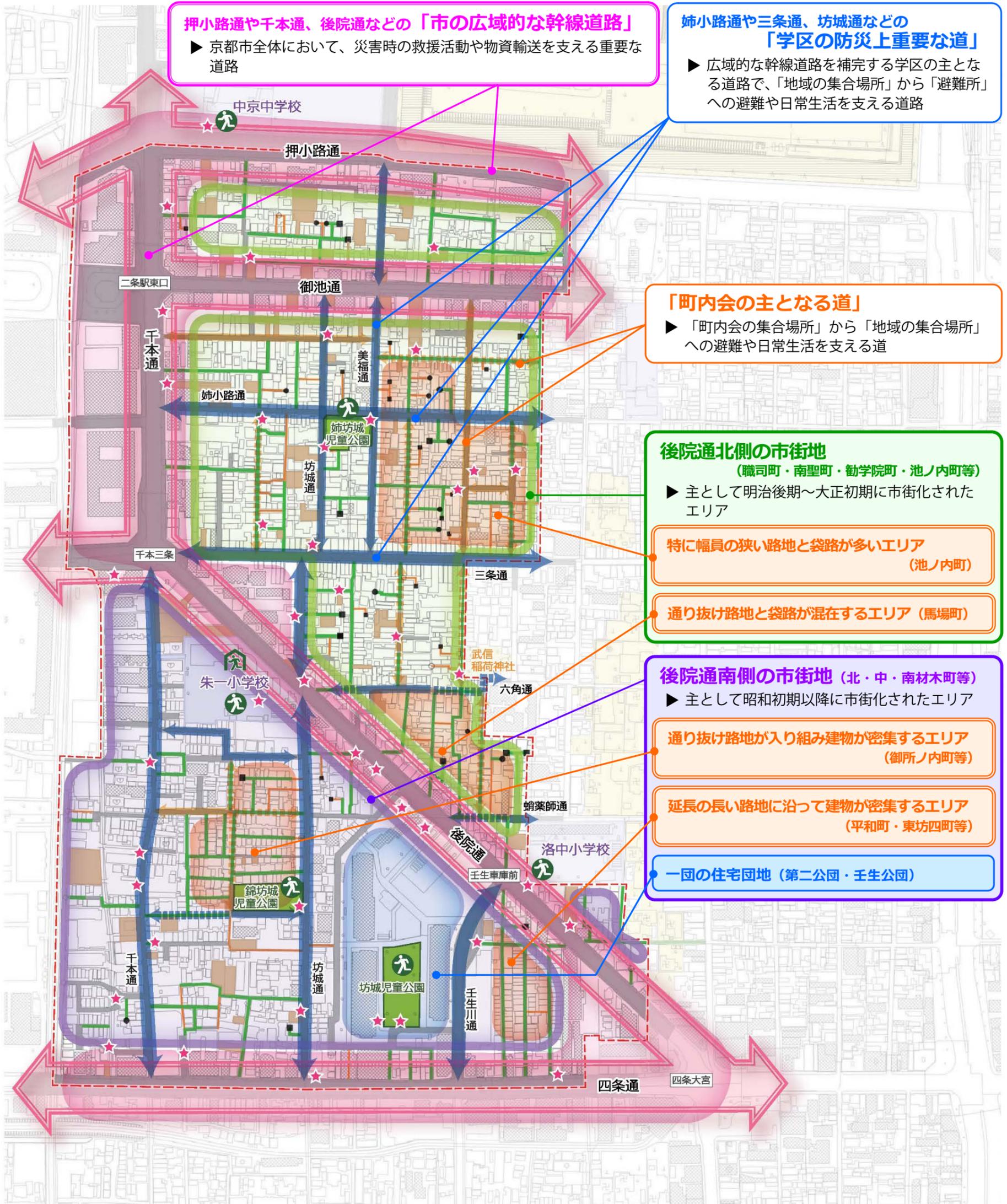
- ▶ 路地や建物が密集しているエリアなどでは災害時の一時的な避難場所や延焼を防止する空間が少なく、安全な避難への影響や火災の燃え広がりなどの危険性があります。
- ▶ 高齢者の増加などによって、災害時の円滑な避難や救出救護活動への影響が心配されます。
- ▶ 地域のつながりが弱くなることによって、身近な町内の防災力が低下するおそれがあります。

### (3) 道の位置付けとエリアの設定

災害につよい安心・安全なまちをつくるため、市街地の成り立ちや「防災まちあるき」、住民のみなさんから頂いた意見等を踏まえ、「防災まちづくり」の軸とエリアの考え方を示します。

		特 性 等
市の 広域的な幹線道路		・沿道にはマンションや大学、店舗、事業所など、大規模な建物が多い。
学区の 防災上重要な道 (姉小路通、三条通、千本通、坊城通、壬生川通等)	 	・自動車や自転車の通行が多く、ほとんどが幅員4m以上。 ・沿道は、千本通等ではマンションなどの大規模な建物が見られるが、姉小路通など木造の建物が残っている道も見られる。
町内会の 主となる道	 	・自動車の通行は比較的少なく、歩行者や自転車の通行が基本で、幅員4m未満の道も多く見られる。 ・沿道にはマンションなども見られるが、木造の建物が比較的多く残っている。
後院通北側の市街地		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅員4m未満の路地が多く、袋路も多く見られる。</li> <li>・マンションなども見られるが、古い木造の建物が多く残っている。</li> <li>・空き家は比較的少ないが、老朽化した空き家が見られる。</li> <li>・平面駐車場など空き地が多い。</li> </ul>
路地や建物が密集するエリア	特に幅員の狭い路地と袋路が多いエリア (池ノ内町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に幅員が狭く、袋路が多い。</li> <li>・路地が入り組み、建物が密集している。</li> <li>・古い木造の建物が多い。</li> <li>・比較的空き家が多く、老朽化した空き家も見られる。</li> </ul>
	通り抜け路地と袋路が混在するエリア (馬場町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路地が入り組み、延長の長い袋路も見られる。</li> <li>・古い木造の建物が多いが、建替えが進んでいる箇所も見られる。</li> <li>・比較的空き家が多く、老朽化した空き家も見られる。</li> </ul>
後院通南側の市街地		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広域的な幹線道路や学区の防災上重要な道の沿道を中心に、マンションや一団の戸建て住宅地が見られる。</li> <li>・建替えが進んでいるが、一部、古い木造の建物も残っている。</li> <li>・空き家は比較的少ないが、老朽化した空き家が見られる。</li> <li>・平面駐車場など空き地が多い。</li> </ul>
路地や建物が密集するエリア	通り抜け路地が入り組み建物が密集するエリア (御所ノ内町等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅員2.7m以上の路地が多く、袋路は少ない。</li> <li>・路地が入り組み、建物が密集している。</li> <li>・町家が建ち並び、雰囲気の良い路地が残っている。</li> <li>・古い木造の建物が多い。</li> </ul>
	延長の長い路地に沿って建物が密集するエリア (平和町・東坊四町等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長の長い幅員2.7m以上の路地が南北に通過している。</li> <li>・町家が建ち並び、雰囲気の良い路地が残っている。</li> <li>・古い木造の建物が多い。</li> </ul>
一団の住宅団地		・大規模な共同住宅が建ち、敷地内に広い公園や空地がある。

# 朱一学区の市街地特性図



**押小路通や千本通、後院通などの「市の広域的な幹線道路」**  
 ▶ 京都市全体において、災害時の救援活動や物資輸送を支える重要な道路

**姉小路通や三条通、坊城通などの「学区の防災上重要な道」**  
 ▶ 広域的な幹線道路を補完する学区の主となる道路で、「地域の集会所」から「避難所」への避難や日常生活を支える道路

**「町内会の主となる道」**  
 ▶ 「町内会の集会所」から「地域の集会所」への避難や日常生活を支える道

**後院通北側の市街地**  
 (職司町・南聖町・勤学院町・池ノ内町等)  
 ▶ 主として明治後期～大正初期に市街化されたエリア

**特に幅員の狭い路地と袋路が多いエリア**  
 (池ノ内町)

**通り抜け路地と袋路が混在するエリア** (馬場町)

**後院通南側の市街地** (北・中・南材木町等)  
 ▶ 主として昭和初期以降に市街化されたエリア

**通り抜け路地が入り組み建物が密集するエリア**  
 (御所ノ内町等)

**延長の長い路地に沿って建物が密集するエリア**  
 (平和町・東坊四町等)

**一団の住宅団地** (第二公園・壬生公園)

凡 例					
	幅員4.0m以上の道路		避難所		公園・公共空間
	幅員1.8m以上4.0m未満の道路		地域の集会所		公共施設
	幅員1.8m未満の道		町内会の集会所		寺社
	袋路(突き当たりが建物)		市の広域的な幹線道路		空き地・平面駐車場
	袋路(突き当たりが塀・柵等)		学区の防災上重要な道 (※破線は4m未満)		学区界
	袋路(突き当たりがドア)		町内会の主となる道 (※破線は4m未満)		
	トンネル路地				

